

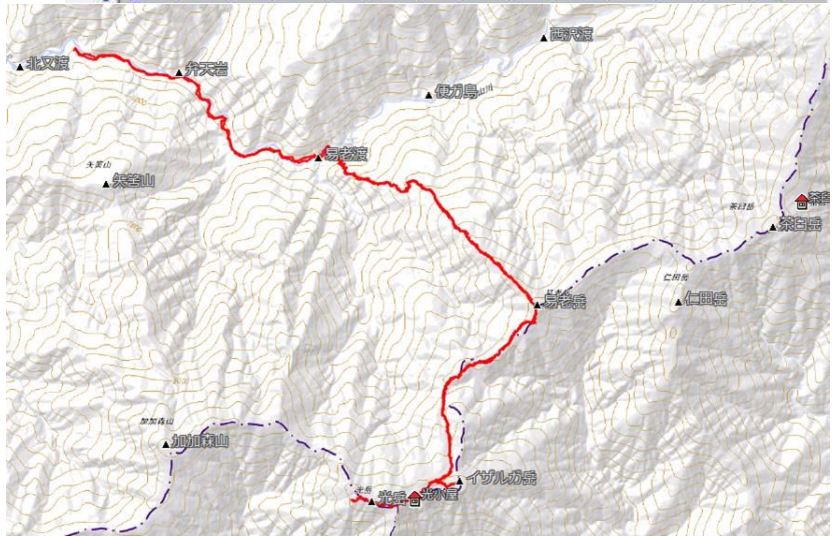
南ア：光岳

- ◆日程 2022年9月16日(金)～17日(土)
- ◆メンバー L：SD、OT、TY、DT

南アルプス南部は個人的には台風の当たり年だった2019年以來の懸案だ。コロナ禍で南アルプス南部の山小屋は営業せず、機会を心待ちにしていた。そんな中、光岳への主要登山口となる芝沢ゲートへ毎日あるペン号の便が今年新設され、すかさずSDさんが計画してくれた。しかも、光岳と聖岳を縦走する野心的な計画だ。結果的には台風のため、聖岳はお預けとなったが、南ア深南部の魅力を体験できる楽しい山行となった。

9月16日(金) 天候：晴れ

前夜23時、竹橋発の夜行バスは台風接近の予報のせいか案外空いていた。未明、伊那大島駅でジャンボタクシーに乗り換え。戸倉方面へ向かう登山者と別れる。次第に揺れが激しくなり、しばしば揺り起こされた。ようやく着いた芝沢ゲートから1時間林道歩きの末、登山口の易老渡に。斜面に取付くといきなりの急登だ。TYさんと私で休憩毎に先頭交代しながらひたすら九十九折を登り続ける。台風の影響による湿った空気なのか、ここ特有の気候なのか蒸し暑い。苔むした幻想的な風景が多くみられる。馬鹿話で



気を紛らわしつつ高度を上げる。少しずつそよ風を感じるようになる。ようやくたどり着いた易老岳、山頂は稜線上にありながらも樹林の中で展望はない。光岳小屋に向けて歩を進めるが、登りだけで6時間をかけたので疲労と眠気でみな無口だ。ゆっくり進みたいところだが光岳小屋はテント場が小さいため、埋まっていないか心配になる。水場の静高平手前で水汲み班と別れ、TYさんと場所確保に急行。イザルガ岳の分岐にきてようやくハイマツ帯だ。南アルプス南部では太平洋の影響を強く受けるため、標高2500メートルでも樹林とハイマツ帯が混在している。なるほど光岳がハイマツ帯の南限とされるのも納得だ。眺めの良いテント場に着くと、まだ十分に空きあり。皆で設営し、休憩もそこそこに山頂を目指す。天気の良い今を逃したくないためだ。山頂は小屋からさほど遠くない樹林の中。聖岳の方が木々の間から見える。光岳に来たからには光石を見なければということで、さらに先に進む。樹林から視界が開けた瞬間、目の前に巨大な石灰岩の塊が目に入る。その先は一面の雲海だ。つまり、光岳の南側には雲海の上に頭を出す山がもはやないのだ。とうとうここに来た。皆で存分に堪能してテント場に戻

る。最新の天気予報（ヤマテン）を確認すると明日の夜から台風の影響で雨が降り始める予想だ。どう先を急いでも聖岳の山頂に立つまでに風雨が強まる。断腸の思いで明日の下山を決めた。期せずして下山前の乾杯となった。夕飯はDTさんによるロコモコ丼。頑張って運び上げてくれた美味なハンバーグと卵が疲れをしっかりと癒してくれた。（記：OT）

CT:芝沢ゲート 6:00 - 易老渡 7:00 - 易老岳 12:15 - 光岳小屋 14:45/15:20-光岳・
光石 15:40/16:20 - 光岳小屋（テント泊） 16:35

9月17日(土) 天候：晴れのち曇り

4時起床、まだ暗いが近隣のテントも起きだしてきている様子。DTさんによるラーメンでしっかり体を温め、撤収準備。トイレは空いている。多くの方は丁度ご来光に夢中なのだ。なるほど、渋滞を避けたければご来光の隙を狙うべし。予定の6時前に出発。昨日パスしたイザルガ岳の山頂に。遠目には平らでなんの魅力もない場所に見えるが決して見逃してはいけない。ハイマツ庭園のような緩やかな斜面を経て広々とした山頂に躍り出るとそこには360度の大展望。今回縦走予定だった聖岳方面の右隣には大きな富士山、左隣には北アルプスと中央アルプス、御嶽山もしっかり見える。聖岳とその先に隠れた縦走路の距離感にはその先はどうなっているんだろう、見に行きたいという好奇心を掻き立てられる。いつまでも眺めていたいが、帰りの便の時間がある。リベンジを誓って後にした。易老岳までは往路とは打って変わってあっという間。そのあとの長い下りはしっかり太腿に効いた。帰りの車中で早速筋肉痛だ。ジャンボタクシーバスへの乗り換えポイントである清流苑という日帰り温泉に。待ち時間は温泉と遅い昼食を満喫するに十分だった。（記：OT）

CT：光岳小屋 5:40 - イザルガ岳 5:55/6:05 - 易老岳 8:15/8:25 - 易老渡
11:35/11:50 - 芝沢ゲート 12:50

